文学資料室 かすみの間

当館所蔵文学資料の一例

川端康成 書

寄せ書き

石井柏亭 画

中澤 茂画

坂戸城欄間

坂戸城欄間

熊谷源太郎 作［三国権現社の扉］
湯沢町指定文化財

与謝野 寛書（左）、与謝野晶子書（右）　北原白秋書

入館時間／9:00～17:00（不定休）
入 館 料／大人…500円
（宿泊者、小学生以下は無料）

川端康成代表作「雪国」執筆の宿

雪國の宿 高半

川端康成代表作「雪国」執筆の宿

高半

『国境の長いトンネルを抜けると雪国であった』雪国巻頭の一節、文豪川端康成先生の名作「雪国」は当館「かすみの間」で、昭和九年の晩秋から昭和十二年にかけて書かれたもので、当時の寂しい「雪国の宿」高半で島村と芸者駒子の悲恋物語が詩のような美しい文章で書かれて居ります。

昭和十二年花柳章太郎先生が暮れ興業に一ヶ月新橋演舞場で熱演されました。先生の色紙も残って居ります。

その後、昭和三十一年の秋から三十二年の晩春まで高半を舞台に「雪国」の映画化が進められ、主演俳優は島村(池部良)、駒子(岸恵子)、葉子(八千草薫)、監督豊田四郎の名コンビで撮影され、名作として皆様に親しまれ、絶讃されました。

この映画は「雪国」を執筆された当館「かすみの間」を主体として当時のままを再現して行なわれ、只今も「かすみの間」は当時そのままに保存してあります。

当館に御宿泊の皆様、旅の一夜を「雪国」作中の島村と芸者駒子の純愛悲恋の物語をお偲び下さい。

尚、与謝野鉄幹・晶子夫妻、北原白秋夫妻御来湯の折「雪国の間・かすみの間」で歌を作られ、その筆は家宝として残されて居ります。又、石井柏亭画伯が「雪国の間・かすみの間」で描かれたスキー場の写生は逸品と云う批評でございます。

◆高半の歴史

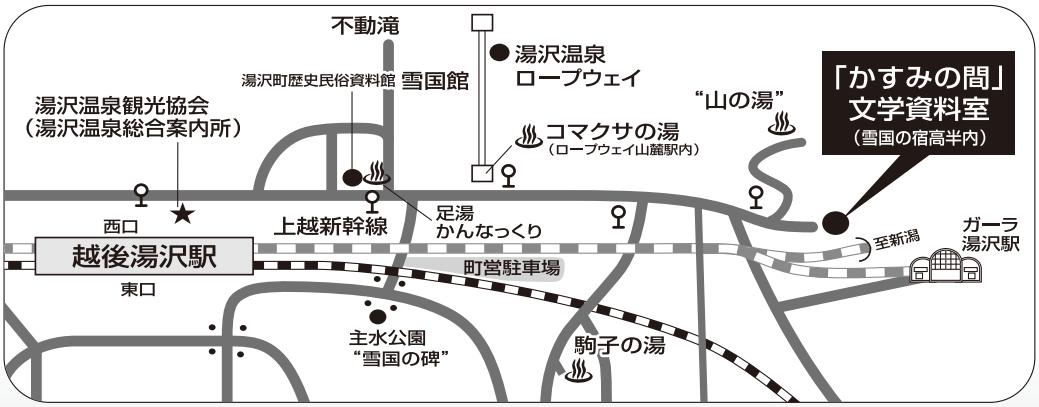
当館は湯沢最古の家柄です。約九百余年以前当館の祖、越後新発田の郷士高橋半六という者が、当未開の地を通って関東に行く途中、急病のため当地に留り蝮赤蛙等捕らえて薬にせんとして谷川に入り、偶然天然湧出の当温泉を発見したのであります。

古文書には、今を隔てる九百余年前、堀河帝の寛治三年源頼綱の家臣三郎兵エ信慶の越後弥彦神社に献納せる地図に湯沢と記載されています。源氏戦国の時代に新田義貞一族は白石郷として拠り、上杉謙信及び景勝は上田衆と呼んで当地を関東北条氏康との合戦の足場とし、当時の坂戸城の欄間の雷神の彫刻は当館に残っています。

高倉帝の安元元年(約八四〇年前)に山津波の被害を受けましたが霊泉絶ゆることなく湧き、元禄年間(約三〇〇年前)大雪崩のため家が倒壊したので、泉元から二百米はなれた当丘にうつったのであります。江戸時代は参勤交代の宿所として栄えたことは、鈴木牧之老の北越雪譜にも記されています。当時の三国峠頂上権現社の熊谷源太郎(寛政文久時代の名工)作の彫刻も当館にあります。古来薬師の湯といわれ、肌を美しくするので卵の湯ともいわれ、且つ中風の湯ともいわれて薬効を慕われましたが、明治以来次第に寂れ信越線の開通と共に山間の宿となりました。

昭和六年九月東洋一(世界で九番目)の清水トンネルが開通し、上越線が完成してから急激に復興して一躍湯沢温泉は天下に知られてきました。日本最降雪地の当地はスキー場としても有名になり、そのため著名人の往来も繁くなりました。

星移り年変りて土地の栄枯盛衰はありましたが、九百年間不思議に尽きることなく湧出る当館天然温泉も珍しく、その湯花の香りも昔から変わることなくつづき、当館も代々この湯を守り、且つ高橋半左エ門を累代襲名して現在に至って居る次第でございます。



越後湯沢温泉 卵(たまご)の湯(ゆ)
雪国の宿 高半
www.takahan.co.jp
〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町湯元
TEL(025)784-3333㈹ FAX(025)784-4047